

8. うめ

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M2	(水と硫黄) イオウフロアブル	散布	発病前～発病初期	-	
	コロナフロアブル	散布	-	-	
	サルファーゾル	散布	発病前～発病初期	-	
10+1	ゲッター水和剤	散布	収穫 21 日前まで	3 回以内	
3	スコア顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	3 回以内	
1	トップジンM水和剤	散布	収穫 21 日前まで	3 回以内	小粒核果類
M2	石灰硫黄合剤	散布	発芽前	-	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
41	マイコシールド	散布	収穫 21 日前まで	4 回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アドマイヤー水和剤	散布	収穫 21 日前まで (ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2 回以内	
29	ウララDF	散布	収穫 7 日前まで	2 回以内	小粒核果類
1	ガットキラール剤	樹幹部及び主枝に散布	休眠期 (落葉後～萌芽前)	2 回以内	
-	スカシバコンL	デイスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置する。	成虫発生初期～終期	-	果樹類
UNM	スプレーオイル	散布	発芽前	-	
1	スミチオン乳剤	散布	収穫 14 日前まで	2 回以内	
1	ダイアジノン水和剤 3 4	散布	収穫 21 日前まで	2 回以内	小粒核果類 (すももを除く)
9	チェス顆粒水和剤	散布	収穫 21 日前まで	2 回以内	
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫前日まで	3 回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける (「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

品種や気象条件により収穫時期が異なるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。
農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

時期	散布薬剤と薬量(水 100ℓ 当り)	発生病害虫名 (太字は防除 重要病虫害)	注 意 事 項
休眠期	胴枯病、枝枯害：枯死樹、被害枯死枝を切り取り、焼却する。凍害が発生しやすいところでは盛り土、ワラ巻などで凍害防止に努める。		
〔2月中旬～3月上旬〕 開花前	水 (87.5ℓ) 石灰硫黄合剤 12.5ℓ	縮葉病 黒星病 変葉病 カイガラムシ類 ハダニ類 コスカシバ	1. 温暖無風な日を選び、ていねいに散布する。 2. 変葉病は、ヤマガシユウを中間宿主とする。発生園では、近隣のヤマガシユウを除去する。
展葉初期	殺菌剤 [参考農薬] マイコシールド 66g	かいよう病 変葉病 アブラムシ類 ウメエダシヤク ウメスカシクロバ ウメケムシ	1. 窒素多施用は、かいよう病の多発に結びつくので、適正施肥に努める。 2. アブラムシ類の発生園ではダイアジノン水和剤34の1,200倍液、アドマイヤー水和剤2,000倍液のいずれかを散布する。 3. アドマイヤーは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
4月下旬	スカシバコンL（交信かく乱剤）：コスカシバの被害軽減にスカシバコンLを使用する場合は、4月下旬が設置時期である。使用方法はももの項参照（50～100本/10a） 殺菌剤 [参考農薬] マイコシールド 66g 殺菌剤 ゲッター水和剤 100g スコア顆粒水和剤 33g のいずれか 殺虫剤 アドマイヤー水和剤 50g ウララDF 50g チェス顆粒水和剤 20g のいずれか	黒星病 かいよう病 灰色かび病 変葉病 アブラムシ類 コスカシバ	1. トップジンM水和剤の黒星病に対する効果が認められる園地では、5月中旬までトップジンM水和剤 1,500倍液を散布してもよい。 2. 変葉病の発生園では、この時期までに被害枝の切除及び被害葉の摘み取りを行い、焼却する。 3. この時期から5月上旬頃は、訪花昆虫利用地域では殺虫剤の使用に注意する。ウララ、チェスは訪花昆虫への影響が少ない。 4. コスカシバの寄生部からの虫糞排出が盛んになるので、見つけしだい捕殺する。 5. アドマイヤーは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
5月上旬	殺菌剤 水和硫黄フロアブル 200mℓ (イオウ、コロナ、サルファーゾル) 殺虫剤 (ウララDF 50g)	黒星病 灰色かび病 炭疽病 かいよう病 アブラムシ類 ケムシ類	1. 黒星病の多発が予想される場合には、水和硫黄剤にかえて、スコア顆粒水和剤3,000倍液を散布する。 2. 灰色かび病の発生園ではゲッター水和剤1,000倍液を散布する。 3. ケムシ類の多い場合は、ファイブスター顆粒水和剤1,000倍液を散布する（果樹類の項参照）。 4. ファイブスターは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。

時期	散布薬剤と薬量(水 1000 当り)	発生病害虫名 (太字は防除 重要病虫害)	注 意 事 項
5 月 中 旬	殺菌剤 { 水和硫黄フロアブル 200ml (イオウ、コロナ、サルファーゾル) } 殺虫剤 (モスピラン顆粒水溶剤 25g)	黒 星 病 灰 色 か び 病 灰 星 病 炭 疽 病 か い よ う 病 ア ブ ラ ム シ 類 ウ メ エ ダ シ ャ ク ウ メ ケ ム シ	1. 中、大梅ではさらに6月中旬までに水和硫黄剤 500 倍液を 1～2 回散布する。 2. モスピラン は蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
農薬の使用回数の注意 使用回数は、収穫後から翌年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。			
収 穫 直 後	殺虫剤 (チェス顆粒水和剤 20g)	ア ブ ラ ム シ 類	
9 月 下 旬	殺虫剤 (スミチオン乳剤 100ml)	ハ マ キ ム シ 類 コ ス カ シ バ	
〔 12 月 上 旬 〕 落 葉 後	殺虫剤 (スプレーオイル 30)	カ イ ガ ラ ム シ 類 コ ス カ シ バ	1. ウメシロカイガラムシ多発園では散布する。 2. コスカシバの発生が多い場合は、ガットキラー乳剤 100 倍液を枝幹に散布する。